

佐々木先生第3稿への意見

2023年2月

高橋 功*

これまでのマクロ的視点での道州制の意義に加え、各州の具体的なフレームや将来展望まで踏み込んでいただいたことにより、佐々木様が目指す方向がより理解できました。

感想文に過ぎずたいへん失礼ですが、以下に整理させていただきます。

1. 州の区分について

様々な意見があると思いますが、個人的には以下のような視点もありうると考えております。

- ①首都圏について北関東、東京都市、南関東と3区分されておられますが、南関東（特に埼玉、千葉、神奈川）については東京の通勤圏として一体となっており、インフラの広域利用、管理の面からもひとつの州として管理した方が良いと感じております。
- ②中国・四国については、本四連絡橋の整備等から、近年では瀬戸内観光圏としての広域観光政策が進められています。JR 四国の自立化が難しいこともあり、JR 西日本との統合運営を含めてひとつの州として管理した方が良いと感じております。

2. 州都の考え方について

州の中での一極集中（例：札幌市、仙台市、福岡市）を避けるために州都を中核都市以外とする考えについては如何でしょうか。米国の場合の州都は小都市が選ばれることが多く、州立大も同様です（例：ワシントン州の州都はオリンピア、州立大は東部のプルマン）。一方、ドイツの場合は中核都市が州都となっており、海外事例を踏まえて、どのようにイメージしたら良いかについてご意見をいただきたく存じます。

特に九州の場合は、熊本が元々は行政の中心であり、州都として位置づけることも重要と思います。また、九州の東西南北交通の接点であり、物流機能が集積する鳥栖辺りも候補になると感じています。

(以上)

* 株式会社 北海道二十一世紀総合研究所 特任研究員